

いのち  
災害から生命を守る学びテスト

# JBK ジュニア防災検定<sup>®</sup>

第3回

中級

(40分)

## 問題用紙

---

「ジュニア防災検定」に取り組むことを通して、みなさんが、次の①～③のようになることを目指しています。

- ① 日ごろから災害に備えた準備ができる。
- ② 災害時に生命を守るための行動ができる。
- ③ 未来を創るひとりとして防災・減災のために何ができるのかを考えることができる。

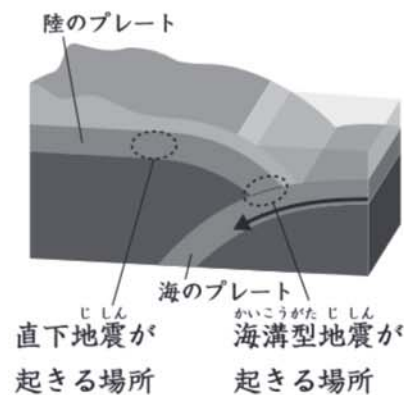
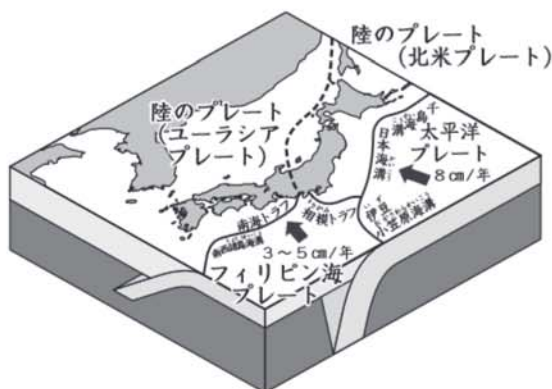
- 問題用紙は全部で13ページあります。
  - 名前を答案用紙の決められた欄に書きましょう。
  - 問題の答えは、答案用紙に書きましょう。
  - 質問があるとき、トイレに行きたくなったとき、気持ちが悪くなったときなどは、手をあげて知らせましょう。
-

- ◆ 花子さんのクラスでは総合学習の時間に、災害の仕組みとその備えなどについてグループごとにテーマを決めて調べ、調べた内容を模造紙にまとめました。第1班は、地震について調べたことをまとめたようです。

## 地震が起こるしくみ

### ○地震のしくみ

- 地震は「プレート」の動きによって起こる。
- 地球の表面は十数枚の、「プレート」という岩の板のようなものでおおわれている。この「プレート」の上に、陸地と海が乗っている。
- その「プレート」の動く速さや動く向きが一つ一つちがうので、「プレート」と「プレート」の境目で、ぶつかったりおし合ったり、片方のプレートがもう一方のプレートの下にしずみこんだりしている所がある。
- 日本付近では、下の図のように、4枚のプレートどうしがおし合っている。



### ○地震の種類

- 海のプレートが陸のプレートの下にしずみ込んでいるところで、陸のプレートがはね上がって起きる地震を海溝型地震という。
- 陸のプレートの内部で、活断層が動くことによって起きる直下地震というものもある。

### ○2つの大きな地震

- 日本では、この20年間に大きな被害をもたらした地震が2度あった。

- ① 1995年1月17日に兵庫県南部の活断層が動いたために起こった直下地震

② 2011年3月11日に東北地方の太平洋沖の海底で発生した海溝型の大地震

問題1(1) 1995年1月17日に起こった地震による災害に対して、政府は「( )  
大震災」と名前をつけています。( )にあてはまる名を答えま  
しょう。

(2) この地震では、震度7という、きわめて大きな揺れが大都市をおそい  
ました。この地震で起きなかった被害を次のア～オから1つ選び、記号  
で答えましょう。

- ア ビルや家屋の倒壊
- イ 高速道路や鉄道高架の倒壊
- ウ 火災の発生
- エ 都市部の大規模な水没
- オ 電気・ガス・水道の断絶

問題2(1) 2011年3月11日に起こった地震による災害に対して、政府は「( )  
大震災」と名前をつけています。( )にあてはまる名を答えましょう。

(2) 福島県にある施設で、地震や( A )によって、電源が失われ、大き  
な事故が発生しました。この( B )の事故の影響で、多くの住民が自  
分の家にもどることができず、いまだに避難生活を余儀なくされていま  
す。( A )・( B )にあてはまることばをそれぞれ答えましょう。

次に、大きな地震<sup>じしん</sup>が起こったときの行動についてのまとめがあります。

### 地震<sup>じしん</sup>への備え

大きな地震<sup>じしん</sup>が起こったとき、まずは、自分の身を守ることが大切。

#### ○3つのポイント

- ものが「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」ことに気をつけて、頭や体を守る。



落ちてこない



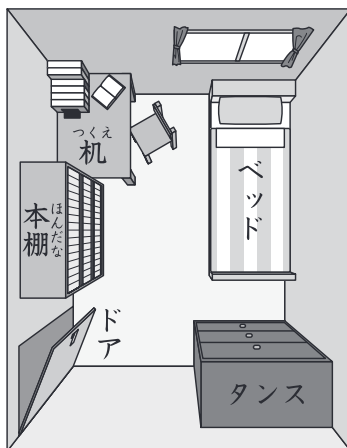
倒れてこない



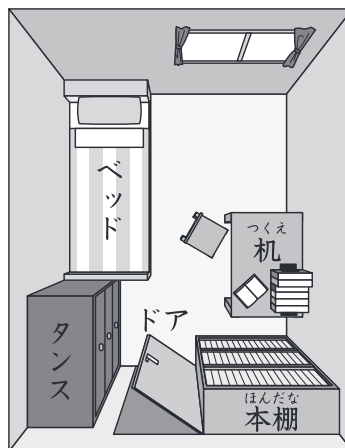
移動してこない

問題3 寝<sup>ね</sup>ているときに大きな地震<sup>じしん</sup>が起こると、すぐに反応<sup>はんのう</sup>できないので危険<sup>きけん</sup>です。自分が寝<sup>ね</sup>る部屋について、L字金具<sup>エル</sup>など、専用<sup>せんよう</sup>の器具を使って家具が倒<sup>たお</sup>れないようにすることが大切です。また、家具の配置を見直すことで安全性を高めることができます。次の子ども部屋A・Bには、それぞれ問題点があります。どちらかの部屋を1つ選び、どのような問題点があり、家具の配置をどう見直せばよいかを考えてみましょう。絵や図を使って説明することもできます。

A



B



津波<sup>つなみ</sup>について調べる中で、1854年の安政南海地震<sup>じしん</sup>による津波<sup>つなみ</sup>に際して、現在の和歌山県広川町で起きた出来事をもとにした「稲むらの火<sup>いな</sup>」という物語を見つけ、クラス<sup>しょうかい</sup>のみんなに紹介しました。

## 稲むらの火<sup>いな</sup>

「これはただ事でない」とつぶやきながら、五兵衛<sup>ごへえ</sup>は家から出てきた。今の地震<sup>じしん</sup>は、別に烈しい<sup>はげ</sup>というほどのものではなかった。しかし、長いゆったりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りとは、老いた五兵衛<sup>ごへえ</sup>に、今まで経験したことの無い不気味なものであった。

五兵衛<sup>ごへえ</sup>は、自分の家の庭から、心配げに下の村を見下ろした。村では豊年を祝う宵祭り<sup>よいまつ</sup>の支度<sup>したく</sup>に心を取られて、さっきの地震<sup>じしん</sup>には一向に気が付かないようであった。

村から海へ移した五兵衛<sup>ごへえ</sup>の目は、たちまちそこに吸<sup>す</sup>いつけられてしまった。風とは反対に波<sup>おき</sup>が沖<sup>おき</sup>へ沖<sup>おき</sup>へと動いて、みるみる海岸<sup>すなはら</sup>には、広い砂原や黒い岩底が現れてきた。

「大変だ。津波<sup>つなみ</sup>がやってくるに違<sup>ちが</sup>いない」と、五兵衛<sup>ごへえ</sup>は思った。

このままにしておいたら、四百の命が、村もろとも一<sup>ひと</sup>のみにやられてしまう。もう一刻<sup>いっこく</sup>も猶予<sup>ゆうよ</sup>はできない。

「よし」と叫<sup>さけ</sup>んで、家に駆け込んだ五兵衛<sup>ごへえ</sup>は、大きな松明<sup>たいまつ</sup>を持って飛び出してきた。そこには取り入れるばかりになっているたくさんの稲束<sup>いなづか</sup>が積んであった。

「もったいないが、これで村中の命が救えるのだ」と、五兵衛<sup>ごへえ</sup>は、いきなりその稲むらの一つに火を移した。風にあおられて、火の手がぱっと上がった。一つ<sup>また</sup>一つ、五兵衛<sup>ごへえ</sup>は夢中で走った。

————— (中略) —————

山寺<sup>はやがね</sup>では、この火を見て早鐘<sup>しょうや</sup>をつき出した。「火事だ。庄屋<sup>しょうや</sup>さんの家だ」と、村<sup>わか</sup>の若い者は、急いで山手<sup>か</sup>へ駆け出した。続いて、老人も、女も、子供も、若者<sup>わかもの</sup>の後を追うように駆け出した。

高台<sup>かた</sup>から見下ろしている五兵衛<sup>ごへえ</sup>の目には、それが蟻<sup>あり</sup>の歩みのように、もどかしく思われた。

————— (中略) —————

「見ろ。やってきたぞ」

たそがれの薄<sup>うす</sup>明<sup>あ</sup>かりをすかして、五<sup>ご</sup>兵<sup>へ</sup>衛<sup>え</sup>の指<sup>さ</sup>す方<sup>ほう</sup>向<sup>きょう</sup>を一同<sup>いっどう</sup>は見た。遠<sup>とほ</sup>く海<sup>うみ</sup>の端<sup>はし</sup>に、細<sup>ほそ</sup>い、暗<sup>くら</sup>い、一<sup>ひと</sup>筋<sup>すじ</sup>の線<sup>せん</sup>が見<sup>み</sup>えた。その線<sup>せん</sup>は見る見る太<sup>とほ</sup>くな<sup>な</sup>った。広<sup>ひろ</sup>くな<sup>な</sup>った。非<sup>ひ</sup>常<sup>じょう</sup>な速<sup>すみ</sup>さで押<sup>お</sup>し寄<sup>よ</sup>せてきた。

「津<sup>つ</sup>波<sup>なみ</sup>だ」と、誰<sup>だれ</sup>かが叫<sup>さけ</sup>んだ。海<sup>うみ</sup>水<sup>みづ</sup>が、絶<sup>ぜ</sup>壁<sup>っぺき</sup>のよう<sup>よう</sup>に目<sup>め</sup>の前<sup>まへ</sup>に迫<sup>せま</sup>ったかと思<sup>おも</sup>うと、山<sup>やま</sup>がのしかか<sup>か</sup>って来<sup>き</sup>たよう<sup>よう</sup>な重<sup>おも</sup>さ<sup>さ</sup>と、百<sup>ひゃく</sup>雷<sup>らい</sup>の一<sup>ひと</sup>時<sup>とき</sup>に落<sup>お</sup>ちたよう<sup>よう</sup>なとどろき<sup>き</sup>とをも<sup>も</sup>って、陸<sup>りく</sup>にぶつ<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>った。人<sup>ひと</sup>々<sup>々</sup>は、我<sup>われ</sup>を忘<sup>わす</sup>れて後<sup>あと</sup>ろへ飛<sup>と</sup>びの<sup>の</sup>いた。雲<sup>うみ</sup>のよう<sup>よう</sup>に山<sup>やま</sup>手<sup>て</sup>へ突<sup>とつ</sup>進<sup>しん</sup>して<sup>して</sup>来<sup>き</sup>た水<sup>すい</sup>煙<sup>えん</sup>の外<sup>ほか</sup>は何<sup>なに</sup>物<sup>ぶつ</sup>も見<sup>み</sup>えな<sup>な</sup>か<sup>か</sup>った。人<sup>ひと</sup>々<sup>々</sup>は、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の村<sup>むら</sup>の上<sup>うへ</sup>を荒<sup>あ</sup>れ狂<sup>くる</sup>って通<sup>とお</sup>る白<sup>お</sup>い恐<sup>おそ</sup>ろしい海<sup>うみ</sup>を見<sup>み</sup>た。二<sup>に</sup>度<sup>ど</sup>三<sup>さん</sup>度<sup>ど</sup>、村<sup>むら</sup>の上<sup>うへ</sup>を海<sup>うみ</sup>は進<sup>ま</sup>み又<sup>また</sup>退<sup>たい</sup>いた。高<sup>たか</sup>台<sup>だい</sup>では、し<sup>し</sup>ば<sup>ば</sup>ら<sup>ら</sup>く何<sup>なに</sup>の話<sup>わ</sup>し声<sup>こゑ</sup>もな<sup>な</sup>か<sup>か</sup>った。一<sup>いっ</sup>同<sup>どう</sup>は波<sup>なみ</sup>にえ<sup>え</sup>ぐり<sup>り</sup>とら<sup>ら</sup>れてあ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>か<sup>か</sup>た<sup>た</sup>もな<sup>な</sup>くな<sup>な</sup>った村<sup>むら</sup>を、た<sup>た</sup>だ<sup>だ</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>て見<sup>み</sup>下<sup>くだ</sup>ろ<sup>ろ</sup>して<sup>して</sup>いた。稲<sup>いな</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>の火<sup>ひ</sup>は、風<sup>かぜ</sup>にあ<sup>あ</sup>お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>れて又<sup>また</sup>もえ<sup>え</sup>上<sup>あ</sup>がり、夕<sup>ゆふ</sup>や<sup>や</sup>み<sup>み</sup>に包<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>れたあ<sup>あ</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>を明<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>した。

————— (略) —————

問題4 物語「稲むらの火」を読んで、あなたが学んだことを書いてみましょう。

また、地震による火災のことがまとめられています。

## 地震による火災

地震が発生したら、火災に注意。

### ○火災が起きる理由

- 地震ではさまざまな理由で火災が発生する。
- 地震では停電が発生。多くの人は避難する際、ガスの火を消したり、元栓を閉めたりしても、電気のブレーカーを落としていないことが多い。電気が復旧した時、電気製品が再び作動し、例えば倒れていた電気ストーブから火が出るなどの恐れがある。

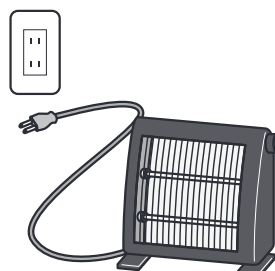
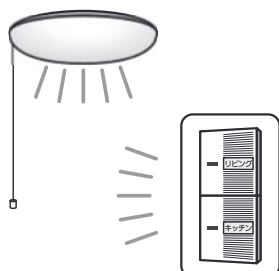
### ○ガスの自動停止

- ガスについては、震度5強程度のとき、ガスメーター(マイコンメーター)が感知して自動的にガスを止める機能がついている。

問題5 地震の後、電力会社による復旧工事が始まります。そして再び電気が通じるようになります。

地震が起きて、家から避難所に移るとき、電気に関してどのようなことをしておくことで、火災を防ぐことができるでしょうか。最もふさわしいと考えられることを次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 電気が通ったことがわかるように、家の電気製品のスイッチをすべてつけておく。
- イ 電気ストーブだけが出火の原因になるので、電気ストーブのプラグだけをコンセントからぬいておく。
- ウ 電気が通ったときに、発熱する電気器具などが原因で火災になることを防ぐため、ブレーカーを落としておく。



- ◆ 第2班は、台風などの風水害について調べたことをまとめたようです。

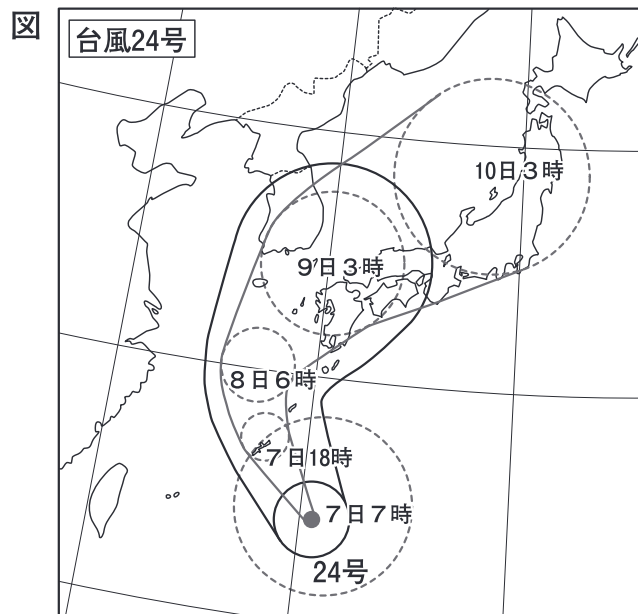
## 風水害① 台風の発生

### ○台風の発生

- 台風が生まれるのは海の上。温かい海から上昇した大量の水蒸気は、雲になりどんどん大きくなる。この雲がうずを巻きながら、さらに大きくなり、中心付近の最大風速が、17.2m/秒以上になったものが台風。

### ○台風の進路

- 秋になると、台風は日本付近に近づくようになり、場合によっては、台風が日本に上陸する。図は、ある年の台風の進路を予想したもの。





台風が日本に接近したときに発表される情報についてまとめてありました。

## 風水害② 台風の大きさと強さ

### ○台風の大きさ

- 気象庁では台風について、風速(1秒間に移動する空気の距離)15m以上の風がふく地域を「強風域」といい、この「強風域」の範囲を「台風の大きさ」として発表している。

台風の大きさ	強風域の範囲
大型	半径500km以上800km未満
超大型	半径800km以上



### ○台風の強さ

- 台風によって、最大で何mの風速になると予想されるかを「台風の強さ」として発表している。

台風の強さ	最大の風速
強い	33m以上44m未満
非常に強い	44m以上54m未満
猛烈な	54m以上

問題6 気象庁が「大型で非常に強い台風」が日本に上陸するおそれがあると発表したとします。この発表からわかる、台風の説明として最もふさわしいものを次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

ア 台風が接近しているが、強風域に入っていないので、風を心配する必要はない。

イ 台風が接近し、強風域に入ると風速44m以上の風がふくこともあるが、「目」とよばれる台風の中心付近では比較的風が弱い。

ウ 台風が接近すると、強風域に入らなくても風速54m以上の風が必ずふく。

次は、災害時の避難についてまとめてあります。

### 風水害③ 災害時の避難

#### ○避難情報

- 気象庁から発表される注意報・警報(大雨、洪水、暴風、波浪、高潮など)を参考にして、市区町村は避難情報を出す。
- 避難情報は、防災無線やサイレン、自治体の広報車や消防車両を利用したり、消防団や町内会などを通じて知らされる。

#### ○避難情報の種類

- ① 避難準備情報…避難の準備を呼びかけている。お年寄りなど、避難に時間がかかる人が避難をはじめべき段階。
- ② 避難勧告…避難を勧めている。通常の人が避難をはじめべき段階。
- ③ 避難指示…避難を強く促している。避難勧告の時より緊急性が増しているため、避難していない人はすぐに避難しなければならない段階。

問題7 気象庁から発表される注意報・警報や、市区町村から発表される避難情報は、発表される時刻が夜であったり、警報が出ていることに気付かなかったりする場合があります。このことから考えて、台風が接近した時にとるべき行動として最もふさわしいと考えられるものを次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

ア 注意報・警報が出ても家でじっとして、避難指示が出されるまで何もしない。

イ 注意報・警報が出たら避難する準備をして、避難指示が出たら、どのような時間や状態であっても、すばやく避難所に移動する。

ウ 注意報・警報が出たら避難する準備をして、まわりのようすなどを見ながら、避難指示が出ていなくても、早めの避難を心がける。

問題8 台風が日本に接近すると、多くの雨が降る場合があります。このとき、地面には、多くの雨水がしみこんでいます。すると、斜面が急にくずれる「土砂くずれ」が起きたり、斜面がゆるやかにすべり落ちる「地すべり」が起きたり、谷や斜面にたまった土砂がいっせいに流れる「土石流」が起きたりします。このような災害が起きやすい場所は、どのような場所ですか。次のア～エからすべて選び、記号で答えましょう。

- ア 海岸を埋め立ててつくった住宅地
- イ 丘をくずし平らにしてつくった住宅地
- ウ 堤防などの補強工事がすんでいる川のそば
- エ 扇状地になっている土地

- ◆ 第3班は、火山や落雷などの災害について調べたことをまとめたようです。

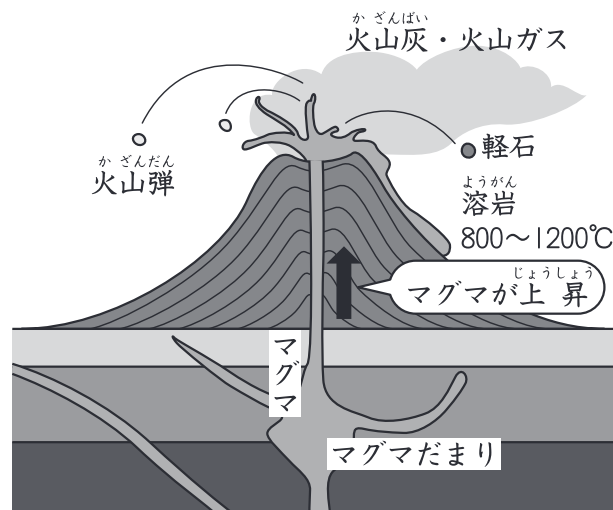
## 火山の噴火①

### ○火山の噴火

- 日本には多くの火山がある。現在も噴火活動をしている火山や、過去1万年以内に噴火した火山を「活火山」という。
- 火山の噴火とは、マグマが噴き出して溶岩がドロドロ流れたり、地下のマグマの熱が地中に伝わってきて地下水が気化し、爆発を起こしたりすること。

### ○火山の観測

- 現在「活火山」は日本に110ある。このうち、47の火山が防災のために常に監視・観測体制がとられている。



次に、噴火のときに出てくる火山灰などの説明がありました。

## 火山の噴火②

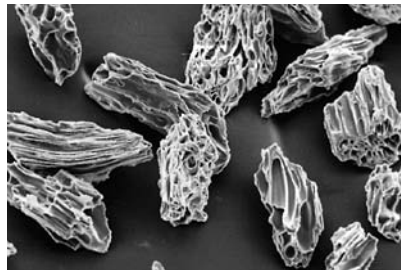
### ○火山の噴出物

- 火山の噴火で、火口から噴き出すものは、火山ガス、噴石(火山弾、火山れき等)、火山灰など。2014年9月の御嶽山では、噴石により、多くの登山客がなくなった。

### ○火山灰

- 火山灰は、火口から遠くまで飛ばされる。水を多くふくむと、ねん土のような粘り気のあるかたまりになる。
- 火山灰は、ガラスの粉のようなもので、目、肺、気管などを傷つける人が出る。

火山灰の拡大写真



アメリカ地質調査所

問題9 火山灰が社会生活にもたらす影響として、ふさわしくないものを次の

ア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 飛行機の運航は停止するが、鉄道やバスなどの運行には影響がない。
- イ 側溝にたまると下水が流れにくくなる。
- ウ 農作物が枯れるなどの被害が出る。
- エ 火力発電の施設への影響で停電が起こる。

次は、<sup>かみなり</sup>雷についてまとめてありました。

<sup>かみなり</sup>雷が起きるしくみ

○<sup>かみなり</sup>雷が発生するしくみ

- 雷は雲の中の静電気で起こる。雲の中では、あられなどの氷の粒が激しく動き回っている。氷の粒同士がぶつかって摩擦が起きると電気が発生する。ちょうど、プラスチックの下じきをこすって頭にかざすと、髪の毛がつくのと同じ。



○<sup>かみなり</sup>雷の性質

- 雷は、電気を通しやすいものに落ちる。
- 校庭や野球場の真ん中など、まわりに建物がないところに一人で立っていると、人に雷が落ちる場合がある。
- 大きな木のそばに立っていると、木に落ちた雷の電気が木の幹を伝わって、木のそばにいた人に流れてしまう場合もある。

問題10 あなたが校庭の真ん中にいるとき、あなたの真上には雲はありませんが、<sup>かみなり</sup>雷が遠くで鳴りました。この後とる行動として最もふさわしいと考えられるものを次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

ア <sup>らいうん</sup>雷雲が遠くにあると考えられるので、近くで音がするまで、そのまま校庭にいる。

イ 真上に雲がないので、<sup>かみなり</sup>雷が落ちることはないが、<sup>らいうん</sup>雷雲が近づいてくるかどうか、空を見上げて注意する。

ウ <sup>らいうん</sup>雷雲が急速に近づいてくる場合があるので、建物の中などに<sup>ひなん</sup>避難をする。



いのち  
災害から生命を守る学びテスト

**JBK**  
ジュニア防災検定®



**N-eco**

このマークは、自然緑の環境への  
取り組みを促すためのマークです。

このテストはエコプリンティング(ライスインキ／森林認証紙)で作られています。

問題制作協力：日能研

(本書の記載内容の無断転用・転載を禁ず)



総合学習の時間では、いろいろなことをテーマにして調べ、テーマ発表会をすることがあります。災害や防災というテーマで発表会を行ったという人もいないのではないのでしょうか。災害や防災のテーマは調べて発表すればゴールというわけではありません。むしろ、それぞれが調べたことや発表されたことをもとにして、自分自身ではどのようにするのかを考え続け、いろいろな場面で行動できるようにしましょう。今回の問題で扱われたことについても、興味を持ったことをさらに調べたり、問題をもとに、自分が住んでいる場所ではどのようにすればよいのかを考えたりしましょう。この問題で出会ったことをきっかけにしていきましょう。

問題1 1995年1月17日5時46分に明石海峡付近を震源とした兵庫県南部地震が発生しました。この地震が大きな災害となったことから、政府は「阪神・淡路大震災」と名前をつけました。この地震では、兵庫県の神戸市を中心に大阪府や京都府などでも被害が発生し、ビルや家屋、高速道路や鉄道高架などが倒れるなどしました。また、火災も発生し多くの家屋が燃えたほかに、電線や水道管などがこわれ、復旧するまでに、電気、ガス、水道が長い時間止まりました。しかし、津波の被害はなく、大規模に都市が水没することはありませんでした。

問題2 2011年3月11日14時46分に宮城県牡鹿半島沖を震源とした東北地方太平洋沖地震が発生しました。この地震による被害や地震によって起きた津波による被害などをふくめて、政府は「東日本大震災」と名前をつけました。この地震では、東北地方の太平洋側の地域に津波による大きな被害が起きました。特に、福島県にある東京電力福島第一原子力発電所では、津波により、原子炉を冷やすための電源が失われ、原子炉の温度が上昇したり、水素爆発とみられる建物の破壊が起きて、放射能が原子力発電所から放出されたりする原子力発電所の事故が発生しました。このことにより、多くの住民が自分の家にもどることができず、避難生活を続けています。

問題3 Aの部屋は、タンスが倒れる方向にベッドがあり、タンスの引き出しがベッドに向いています。地震が起きたときに、ベッドに寝ていると、タンスが倒れて下敷きになる可能性があります。このため、タンスを引き出しがドアに向くような位置に変えることによって、タンスがベッドに向かって倒れてくる可能性を低くするようにします。Bの部屋は、タンスが倒れたときに、ドアをふさいでしまいます。すると、地震が起きた後に部屋から出られなくなる可能性が高くなります。このため、机を窓際に移動させ、そのとなりにタンスを置くことによって、タンスが倒れてもドアをふさがず、ベッドにもとどかないようにします。

問題4 地震を体験した人の話や、過去に地震が起きたときの物語などは、地震が起きたときに、どのような行動をとればよいのかを考える参考になることがあります。「稲むらの火」という物語では、津波が来ることに気づいた人が、稲束に火をつけ、それを発見した山寺の人が火事だと思って早鐘を打ち、その鐘の音に気づいた人々が避難するという内容になっています。このことから、津波が来ることに気づいた人は、なるべく多くの人にそれを知らせることが大切であるということがわかります。また、多くの人に津波を知らせて避難することが第一で、お金や価値のあるもの(物語の場合は稲束)はかえりみないということも読み取ることができます。

また、物語の最後で、「二度三度、村の上を海は進み又退いた」ということから、津波は一度だけでなく、二度三度と来ることがあることが読み取れます。

問題5 「地震による火災」のまとめにあるように、電気ストーブが倒れていて、電気が復旧したときに、倒れた電気ストーブから火が出るという原因の他に、電気を流すための線(導線)が切れたり、燃えるものと導線がふれていたりすると、電気が復旧したときに火が出ます。したがって、避難するときに、ブレーカーを落として、家の中で電気が通らないようにしておくことで、知らない間に自宅が火事になることを防げます。最近では地

震などを感じると自動的にガスの供給を止める装置がついているなど、いろいろなしくみがあるので、自宅ではどのようなしくみになっているのかを調べておくと、地震が起きたときの行動がしやすくなります。

問題6 問題の図より、大型の台風は半径が500km以上になるので、現在、強風域に入っていないくても、台風の進路によっては、強風域に入る可能性があります。また、非常に強い台風の強風域では44 m以上の風速が観測されますが、風速が25 m以上になると、木が折れたり、家の屋根が飛ばされたりします。したがって、強風域に入っていない場所でも、風を心配する必要があります。また、台風の目にあたる場所では、さかんに地表から上空へと空気が移動するため、風速が弱まることがあります。台風が接近していて、一時的に風が弱くなっても、台風の目が通り過ぎると、再び強い風が吹くことがあるので、注意が必要です。

問題7 避難指示が出るのが夜になった場合に、警報などを聞いてから避難すると、夜でまわりのようすがはっきりと確認できない状態で避難しなければならなくなり、避難という行動を起こしたために災害にあうということもあります。したがって、避難指示が出る前に早めの行動をする必要があります。また、早めの行動を取るためには、日頃から、どのような災害が起きたときに、どのように避難するのかを決めておいたり、家のまわりの状況がどのようなようになるのかを調べておいたりすることが大切です。そうすることで、災害にあわないうようになったり、災害にあったとしても軽い状態ですむようになります。

問題8 「土砂くずれ」はがけなどの急な斜面が雨水などでゆるみ、急にくずれる現象で、「地すべり」は、ゆるやかな斜面が地下水などの影響によってゆっくり下の方にすべっていく現象です。また、「土石流」は、川底などにたまっていた木や土が、集中豪雨によって一気に流れ落ちる現象です。したがって、斜面になっている丘は、住宅が建っている場所が平らでも土砂災害が起きやすい場所です。また、扇状地は川が運んできた土砂が積もってできた台地なので、地下水が多くなる可能性が高く土砂災害が起きやすい場所となります。土石流は河川にそって流れるので、川のそばは災害にあう可能性が高いのですが、堤防など、土石流に対する補強工事が終了している場所では災害にあう危険性は低くなります。

問題9 火山灰は、非常に細かいガラスや砂のような粒です。この細かい粒が機械の中に入りこんで、飛行機のエンジンが止まる可能性が高くなります。また、火山灰は雪よりも取り除く作業が大変なので、道路や線路などに火山灰が降り積もると、鉄道やバスも通常のように走ることができなくなります。さらに、農作物の葉の部分に火山灰が降り積もることによって光合成ができなくなったり、葉をいためたりするため、農作物の育ちが悪くなるなどの被害が出ます。さらに、飛行機のエンジンと同じように、火力発電所も空気を取り入れて燃料を燃やして発電するため、空気の取りこみ口から火山灰が入り、効率よく発電することができなくなる可能性が高くなります。

問題10 雷が発生する雷雲は、時速40kmで進むこともあります。このため、自分のまわりに雷雲がなくても、雷鳴が聞こえた場合には注意が必要になります。特にまわりに建物が無い広場、原っぱなどでは、電気を通しやすい人間に雷が落ちてくる可能性が高くなります。したがって、建物などに早めに避難することが必要です。まわりに建物が無い場合は、なるべく背を低くし、金属などの電気を通しやすいものを体からはずしておきましょう。また、高い木のそばにいる場合には、木から3 m以上はなれる方が安全です。

# JBK ジュニア防災検定<sup>®</sup> 第3回

中級

答案用紙

得点

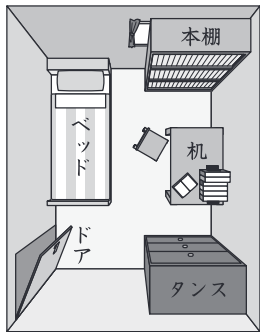
学校(団体)名

フリガナ  
名前

男・女

問題1	(1)	(2)
	阪神・淡路 (大震災)	工

問題2	(1)	問題3 <b>解答例2</b> (部屋)B (問題点と見直し)タンスがドアに向かって倒れ、ドアが開かなくならないように、タンスを机と同じ方のかべにつけて置く。
	東日本 (大震災)	
A	津波	B 原子力発電所 (の事故)

問題3	部屋 <b>解答例1</b> A	問題点と見直し <b>解答例1</b> 割れた窓ガラスでケガをしないようにベッドと机・本棚の位置を変えてベッドを窓際から離す。本棚をベッドに対して垂直に置き、本棚がベッドに倒れるのを防ぐ。 (3つのポイントに注意) ①窓ガラスが割れてもベッドに落ちてこない、②家具がベッドに倒れてこない、③家具が倒れてドアをふさがないようにする。	
-----	------------------------	--	---

問題4	<b>解答例</b> 津波の被害をおさえるためには、津波がくることに気づいた人が、なるべく多くの人に短時間で知らせることが重要だ。 ※津波の時は、必ず引き潮があるとは限らないので注意してください。
-----	---

問題5	ウ	問題6	イ	問題7	ウ	問題8	イ、エ
-----	---	-----	---	-----	---	-----	-----

問題9	ア	問題10	ウ
-----	---	------	---